

# ふるさとわがまちづくり

## 枝下町自治区

### ◆「枝下町」の由来

猿投台地区に、矢作川に沿って細長く伸びた町並があります。そこが枝下自治区です。枝下町の歴史はかなり古く、今から400年前以上も前の天元元年当時の年貢状、けんか状、田畑検地帳などの古文書から知ることができます。

また、これらの古文書から推察するにこの地は、はじめ志多利郷と呼んでいたようです。

その後、参洲加茂郡枝下村という名前の由来は明らかではありません。

枝下町は現在60世帯あります。そのうち7割が三宅姓ですが、このことは枝下の町が生まれたことと深い関係にあります。

興国5年、今から630年前のことですが、隣の区にある広瀬城を三宅(児島)高德が築城しました。その後、何代かを経て同高き清のとき、徳川家康に討たれて落城してしまいました。その子孫がこの地へ落ちのび、住み着いたのが三宅姓の多い原因だといわれています。

自治区のほとんどが山で占められています。山には、東洋一といわれる質の良い木節粘土が大正初期に発見されて以来、昭和50年代まで採掘が行われていました。

### ◆枝下用水

一方、矢作川の水を農業用水に利用するため、明治23年に完成した枝下用水の取り入れ口跡があります。明治13年に着工し、およそ10年の歳月を費やし完成しました。その後、越戸ダムが建設されると、用水取り入れ口は、越戸ダムに移っています。

他に矢作川では渡船場があり人馬や荷物を運んでいました。

しかし、これも昭和28年頃まで行われ廃止されました。先人の記憶によると渡船賃は1人につき三厘、牛馬は七厘といわれています。



### ◆枝下町のしだれ桜

昭和47年には猿投グリーンロードが開通したことで、交通の便も一層よくなりました。昭和50年1月、枝下インター前にあるしだれ桜が市の銘木に指定されました。一時、枯死寸前まで衰弱しましたが、平成5年より蘇生作業を開始。樹木医の指導で毎月作業を継続して、最近では小川の清掃、付近の環境保全にも配慮している。



### ◆名鉄の廃線 わくわく広場

平成16年3月、名鉄三河線猿投・西中金間の鉄道8.6kmが廃線となって以来、駅舎周辺にごみが散乱したり、樹木や雑草が生い茂るなど環境が悪化してきました。

そこで、沿線周辺の環境の荒廃を防ぎ、生活環境向上を目指し廃線敷地を利活用するため、平成17年12月、豊田市と名鉄で協議し、地域振興目的に限って使用できる契約が結ばれました。これを受けて、沿線24自治区が動き出し、平成18年2月「通称 でんしゃみち会議」を立ち上げました。



廃線敷地は、地域にとっても、豊田市にとっても貴重な財産です。この財産を活用し、地域の活性化を目的としての「わくわく広場」の整備に取り組みました。

### ◆枝下町の特徴、自治区団体

飯田街道跡・渡船場跡(飯田街道唯一の渡し)・吊り橋跡・中島(船で出かけ耕作)・舞木道(猿投神社詣でに活用)

- ・枝下河川愛護会
- ・枝下町打ち囃子保存会

### ◆現在の課題と将来に向けて

今後も、調和のとれた環境のよい町づくりを目指していき、特に若い人達の力を中心にした区民一体の自治区づくりを進めたいと思います。

### 枝下町自治区示一々

(H20.4現在)

世帯数：60世帯  
：52世帯(昭和51年)  
組数：7組  
面積：0.91Km<sup>2</sup>  
自治区たより：「区民かわら版 しだり」  
年4回発行  
回覧：月2回  
ちびっ子広場：1箇所  
ふれあい広場：1箇所  
防犯灯設置箇所：19箇所  
小学校：西広瀬小学校区  
自治区会館：枝下町公民館